

京 都 大 学

第 21 号



連用形とカ（下）
.....
葛 清行
（二）

『却癡忘記』の用語の一斑
.....
山中 延之
（二七）

京都大学
立松文庫蔵 『和漢々和』翻刻と解題（上）
.....
楊 昆鵬
（二七）

中院通茂『未来記雨中吟聞書』翻刻（二）
.....
中村 健史他
（四七）

平成二十年度 京都大学国文学会 研究発表要旨
.....
（五七）



前々号(第19号) 目次

勘物の位置

——清輔本『古今和歌集』の享受をめぐる

て

舟見 一哉

伝二条為氏筆新古今和歌集切

補遺
舟見 一哉

「新古今集詞連歌」考察

——和歌句題、続歌と詞連歌——

小山 順子

「新古今集詞連歌」の本歌と付合

竹島 一希

陽明文庫蔵「近衛基熙消息」の翻刻と解題

川崎佐知子

平成十九年度

京都大学国文学会 研究発表要旨

前々号(第20号) 目次

十周年記念号

小特集 近世・近代文学

番外謡本所蔵の一端

——連歌師猪苗代家と《兼載桜》《摺上》——

中嶋 謙昌

蟬、ひぐらしを詠む万葉歌と中国文学

宋 成徳

「忠快赦免譚」考

橋本 正俊

「芸術と実行」論争の発端

——明治四十一年の長谷川天溪と岩野泡鳴との論争を中心に——

王 憶雲

連用形とカ(上)

薦 清行

郁達夫と佐藤春夫に関する小考

申 英蘭

「伊勢物語詞連歌」 翻刻と紹介

小山 順子
竹島 一希

「アカシアの匂に就て」論

——伊藤整における或る転回——
飯島 洋

『羅葡日辞書』の錯誤と製作工程

岸本 恵美

平成十九年度 修士論文要旨

投稿規定

- 一、本誌は、投稿資格を設けることなく、国語学・国文学に関する論文を広く募集します。
- 一、投稿論文は四百字詰原稿用紙にして四十枚（二万六千字）程度を一応の目安とします。
- 一、原稿の採否は査読委員会が決定いたします。
- 一、原稿の締切は毎年二度、六月・十二月の末日とします。
- 一、ワープロを使用した場合は、ソフト名（機種）・四百字詰原稿用紙に換算した原稿枚数を明示の上、フロッピーディスクと印字した原稿を同封してお送りください。フロッピーディスクと印字した原稿は返却いたしません。
- 一、四百字詰原稿用紙二枚程度の要約文を添付してください。
- 一、論文掲載の場合は本誌三部を贈呈いたします。それ以上の本誌・抜刷については実費を申し受けます。
- 一、宛先は以下の通りとします。
千六〇六一八五〇一 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室内「國文學論叢」編集部

平成二二年四月一日 印刷
平成二二年四月一日 発行

京都大学國文學論叢 第二二号

編集発行者

京都大学大学院文学研究科

国語学国文学研究室内

「國文學論叢」編集部

千六〇六一八五〇一

京都市左京区吉田本町

電話 〇七五―七五三―二八二四

印刷者

京都市南区吉祥院池ノ内町10

明文舎印刷株式会社

表紙題字『易林本節用集』より

（京都大学文学部藏慶長板）